

新しい授業づくりの文化をつくる

令和5年10月18日
「能力ベースの授業づくり実践講座」通信
第6号 G セット 教材研究会

■講座の目的

- ①未知の問題場面に出会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

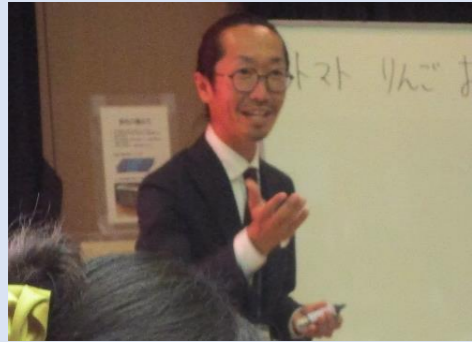
■講座の目標

令和6年度スタートにあたり、吹田市100%の教職員が学習指導要領に基づいた授業づくりを目指す。
「学習指導要領に基づいた授業とは・・・である」を自分の言葉で語る。

G セット教材研究会 9月11日(月) @吹田市立教育センター 研修室
単元名:「自分が伝わる名刺」 授業者:曳田 佳隆 先生 (片山中学校)

「能力ベース授業づくり実践講座」では、教材研究と授業研究会を1セットとして実施しています。今回はGセットの教材研究会を行いました。授業者の曳田先生からは自分らしさが表現できる名刺づくりを創造的活動のサイクルをイメージした学習計画と、色彩の性質を学ぶ本時の授業の提案をいただきました。齊藤先生からは、現行学習指導要領の目標の何が新しいのかについて、学習対象と育成する能力との関係について、造形活動の描き方についてご講義いただきました。この学びを基に10月23日(月)に授業研究会が実施されます。

授業者の提案



曳田 佳隆 先生
(片山中学校)

Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 形や色彩の性質や効果を理解し、表現に生かす力
- 性質を活かしたコミュニケーション能力

論点①この解釈でいいか？

Why 形や色彩の性質や効果を活かすか
コミュニケーション
この解釈でいいか？

How 「創造的活動」を推し進めていると言えるか？

What ① 形や色彩の性質や効果を使いこなす
→ コミュニケーションを活かす
自分で成長していく力。

生活に関するアンケート
人生のおもしろさ
自分たちで使いこなすか

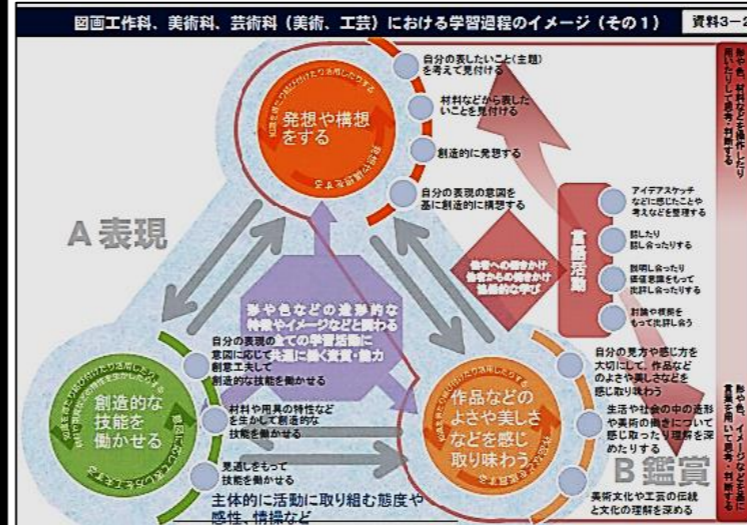
△ 目標 「あいまいな項目が含まれているのでは？」
→ 外に目を向けることは時間がかかりか？
→ 平面(名刺)は「リ」による度々
→ 自分を見つめなおす

△ コミュニケーション対話の場面と問も対話
→ 11時より深まるのでは？
→ 一般の考えにも触れる。
→ 名刺以外に「名刺」以外に「名刺」
→ イメージにとらわれない
書きにくい子どもは多い、小さい。
→ 子どものアイデアを対話の中で出していくことも可能

What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

- 形や色彩の性質や効果を使いこなす (コミュニケーションに生かす)
- 自分で成長していく力 (創造的活動のサイクルを推し進める力)



教育課程部会 芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて
(報告)平成 28 年 8 月 26 日 芸術ワーキンググループより引用

論点②本単元の学習計画は、子供が「創造的活動」を推し進めていると言えるか？

How どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

時	学習内容・学習活動
1	導入・準備 ・様々な名刺を見る・自分の名刺を自由につくる
2	フォントの鑑賞 ・フォントの雰囲気・雰囲気のもとになる形
3	レタリングの基礎 ・字の骨格となる中心線・画の肉付け(パーツ)
4	レタリングの練習 ・パーツの形状・考えたパーツを組み合わせる
5 本時	色とイメージ ・色のイメージ・「感覚」と「もの」の関係
6	色づくり ・ポスターカラーの使い方・混色の基礎
7	色彩とイメージ ・色の組み合わせ方・よりこだわった色選び
8	名刺のアイデア
9	・自分の個性を考える・個性の表現を考える
10	制作
11	制作・振り返り 名刺交換をし、考えを語り合う

齊藤先生のお話は裏面へ

美術科の目標【学習指導要領 第2章 第1節 1教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3)美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

齊藤先生のお話

23.09.11 授業録 H20 何故新しいのか? 表現及び鑑賞の活動は? (柱) 造形的な見方・考え方 (柱) 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

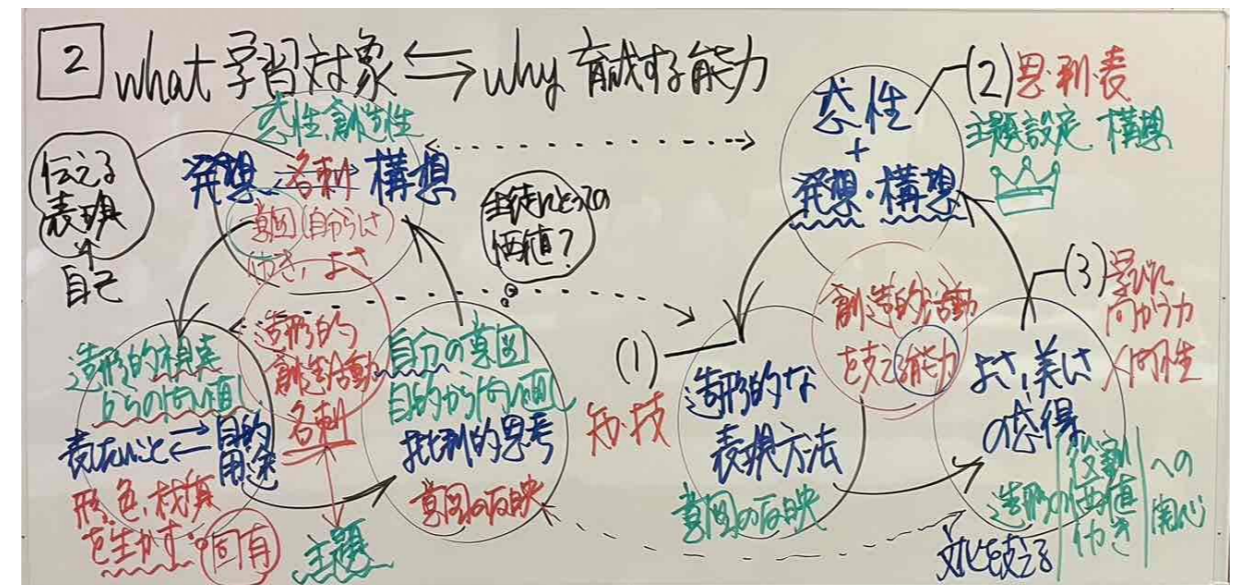
内容: 1. 新旧? 2. What's why? 3. 個性? 4. 表現の意図と工夫? 5. 発想と構想? 6. 生活の創造?

何が新しいのか～H20年との比較

- ①造形的な見方・考え方 「色」「形」「レイアウト」などの視点を働かせて、「良さ」「美しさ」「表現の意図」「工夫」「働き」に取り組みたい。
- ②発想、構想 大事なのは、自らの意図を持つということ。何よりも生徒自身が発想、構想でこれを支える主題が生徒の中にあるかどうか。つまり、学習者に創造的な造形活動の主体を委ねることができる、現行の指導要領は期待している。
- ③生活の創造 そもそもなぜ名刺を作るのか。名刺を作ることによって、どんなことがしたいか。それは自分らしさを相手に伝えていきたい。そして名刺によって人との関係性をより良いものにしていく。CSの「生活の創造」は、他者との関係、より豊かな人間社会というものを創り上げていくこと。名刺によって、お互いがほっこりとしたいい関係になるとか、「へえ、この人ってそうなんだ」というようなことが伝え合うことができる。そういった実感を生徒1人1人が持てるような展開にしていくことが期待されている。

H20学習指導要領 美術科の目標	現行学習指導要領 美術科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、 美術の基礎的な能力を伸ばし、 美術文化についての理解を深め、 豊かな情操を養う	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、 造形的な見方・考え方を働かせ、 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

Why 何故学ぶのか 子供達が身につけるべき資質・能力は? ↔ What 何を学ぶのか 子供達の学習対象は? ↔ How どのように学ぶのか 子供達の学習過程は?



WHATの学習対象とWHYの育成する能力の関係

造形的創造活動は「自分らしい名刺を作る」。造形的創造活動のプロセスそのものが学習対象。先生が「はい、次これやるよ」でなく、いずれは生徒の方が「これを作ってこれやってこうやってくだな」と分かることが非常に大事。全部を支えているものが主題。生徒にとって名刺の価値は一体何かがはつきりしないと、作っていても「ま、これで十分なんだ」となって、その先に行かなくなっちゃう。その価値を入口で丁寧にやるのが非常に大事。

①自分らしい名刺を作りたいという「発想と構想」
名刺との出会い...生徒が学習材と出会って、より豊かに発想していると思う場を用意する。そこで大事なことが、その意図である自分らしさを発想したい。名刺にはどんな働きがあって、どんな良さがあるのかってあたり、こういったようなものを発想していきたい。

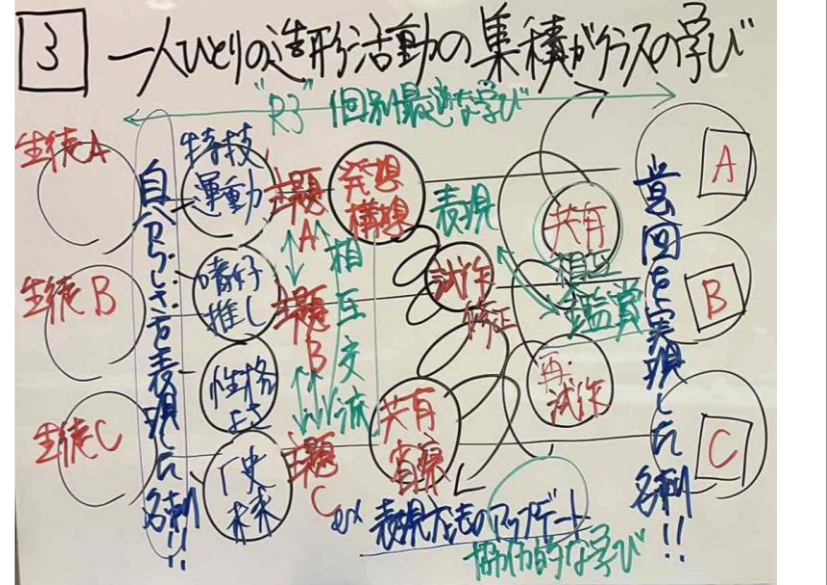
②造形的な視点からの問い直し
本当に自分らしい名刺なのか、本当に自分の表したいこと、自分の目的に本当に合っているかどうかを問い直す。形、色、材質の特性などの美術の固有の視点からの問い直し

③自分の意図、目的からの問い直し
自分はこういうことを作りたいかたかた、本当にそれになったか、自分の視点から自分の意図と目的からの問い直しをする。本当にこれが自分の作りたいかたかたの名刺なのか、批判的思考を繰り返す。1番最初のスタートとうまく合致しているか。言い方を変えると、意図の反映。

④良さとか美しさの感得
良さを感じる心、美しさを感じる心ってこういうものがなければ、自分の意図、目的からの問い直しはできない。いわゆる非認知能力。

①「感性」+「発想と構想」
創造的活動を支えていくために美術で1番重要なのは「感性」とCSが強調している「発想と構想」。発想は、活動を回すエンジン。発想が豊かであれば創造的活動は回らない。

①「感性」+「発想と構想」は、主に(2)「思考、判断、表現」。②造形的な表現方法は、(1)「知識、技能」が中心。③良さとか美しさの感得は(3)「学びに向かう力、人間性」という関係になっている。育成すべき能力と学習対象としての創造的活動サイクルは非常に大きく関わりを持っている。



1人1人の造形活動の集積がクラスの学び

今までは全体の中で1人1人が造形活動を進めているが、その発想変えてみたらどうか。
共通の課題は主題「自分らしさを表現した名刺」。
自分らしさを表現したいと言った時、自分らしさには色々な視点がある。例えば、運動、特技、嗜好、推し、生徒自身の性格、良さ、自分の歴史、なりたいたい自分、こういったものを考えながら、自分の主題を置く。その時に大事なのが、相互交流。そして、主題をもとに発想、構想、試作、修正、他者との共有、作品の省察といった一連の造形活動のプロセスがある。このプロセスが繰り返されていく中で最終的に作品にたどり着いていく。
授業の景色として、あっちでは相談、こっちでは一生懸命作るといような、落ち着きないことが望ましくないじゃないかと思うかもしれない。だけど、その景色は誰を中心に考えてきたか。
最終的には子供自身の意図を実現した名刺。
1人1人の造形活動は、令和3年答申で言われている「個別最適な学び」。「個別最適な学び」の集積がそのクラス全体の学びになっていく。

受講者より

- より活動が活発になるよう主題を設定し、どう学びのプロセスを考えるか、授業を作る際に意識していけたらと思いました。(I先生)
- 相互交流する中で、全体の作品は良くなっていくと思いますが、評価をする中で「発想した人」と「いいところ取りをした人」の違いを見抜くのが難しいのではと思います。正しい評価がつけられるの不安です。(I先生)

【編集後記】
豊かな創造的活動を目指すために、場の設定や相互交流を工夫するがなかなか子供の意欲が高まってこないことがあった。今日の学びを通して、そもそも「発想と構想」の段階でエンジンがかかっていないことがあると反省した。学習材とどう出会うか。これは美術科のみならず、その教科でも言えることである。(文責:教育センター山笠)